

南部鉄器展

Exhibition of
Nanbu Tekki
Morioka History and
Culture Museum

暮らしの
中の
鉄器たち

観覧料
無料

2026.

1.10(土) — 1.31(土)

会場／もりおか歴史文化館〈2階企画展示室〉
開館時間／午前9時から午後6時 *入場受付は午後5時30分まで

もりおか歴史文化館
Morioka History and Culture Museum 石川100-7

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸1番50号
Tel.019-681-2100 <https://www.morireki.jp/>
*会期中の休館日は、2026年1月20日(金)です。

岩鑄○三代目清茂（八重樫） 岩鑄○吉田真也
 岩鑄○阿部亘 岩鑄○小川勇唯人 岩鑄○袋畑麻衣
 御釜屋○十一代小泉仁左衛門 釜定○大村敏宏
 釜定○小熊愉吉 釜定○宮昌太朗 紅蓮堂○葛巻元
 薫山工房○三代目佐々木薫山 薫山工房○畠山拓巳 薫山工房○阿部貴
 薫山工房○四代目佐々木薫山 薫山工房○鈴木盛久
 虎山工房○山田真 鈴木盛久工房○鈴木盛久
 鈴木盛久工房○石田温 鈴木盛久工房○村井秀行
 鉄瓶工房高橋○高橋大益 鉦屋○菊池翔

岩手県を代表する工芸品であり、現在では国内外から注目されている「南部鉄器」。

南部鉄器は盛岡市と奥州市水沢区で作られている鉄器の総称ですが、旧盛岡藩である盛岡と旧仙台藩である水沢とでは、それぞれ異なる歴史を持ち、現在まで受け継がれています。

ここ盛岡では藩内で鉄器づくりに必要な鉄や砂、木炭などを得られる好環境と、藩主である南部家の奨励のもと江戸時代に発展を遂げていきました。お抱えの釜師や鑄物師たちは、互いに技術を研鑽しあいながら数多くの鉄器を作り、時の藩主は「在所細工（※盛岡藩の職人が作った品という意）」の茶釜や鉄瓶を幕閣や他の大名に贈っていた記録が残されています。

江戸時代が終わり、藩の庇護を失った職人たちは大きな転換期を迎えますが、明治・大正・昭和・平成、そして令和と幾多の盛衰を繰り返しながら、今もなお伝統の技術を受け継ぐ職人たちが南部鉄器を作り続けています。

本展では現役の南部鉄器職人たちが2025年度までに制作した作品を中心にご覧いただきます。その時代、暮らしにあった姿形を模索し、常に進化を続ける職人たちが形作った鉄の姿、そこに込められた思いを感じていただければ幸いです。

関連事業

●ギャラリートーク（出品者による展示作品解説）

日時／2026年1月11日① 13時30分～14時30分
会場／2階企画展示室

●南部鉄瓶のお湯試飲会

日時／2026年1月11日①、1月17日②、
1月24日③ 10時～12時／13時～15時
※1月11日の午後の部は14時30分から
会場／1階祭り企画展示室



〒020-0023 岩手県盛岡市内丸1番50号
Tel.019-681-2100 https://www.morioki.jp/


もりおか歴史文化館
 Morioka History and Culture Museum 活性化グループ

観覧料／無料
 *会期中の休館日は、
 2026年1月20日③です。

南部鉄器展

暮らしの中の鉄器たち

